

優輝

～総合ヒューマン類型特別講座～

右記は、先日行われた総合ヒューマン類型特別講座の内容です。これから校外学習も始まりますが、実りある校外学習にするために、総合ヒューマン類型の生徒は事前学習の内容をもう一度押さえておきましょう。学年通信では、このように学校での活動を掲載していこうと思っています。保護者の皆様におかれましても一度目を通していただき、学校での活動について、お子様と話をする機会を作っていただければと思います。

次の学年通信では、来週行われる学年集会の様子と、その内容を紹介します。定期考査前ということもありますので、ご家庭でも内容等共有していただければ幸いです。

【コメント返答コーナー】

・読みました。少しずつ打ち解けてきている様子が各クラスにあるようで、嬉しいです。

・お世話になっています。心配からのスタートでしたが、少しずつ学校生活に慣れ始め、新しいお友だちもできはじめて、安心しています。どうぞよろしく願いいたします。(今までの優輝も読ませていただいています。)

→いつもコメントありがとうございます。日に日に打ち解けていく様子が見受けられて、われわれ学年団としても少し安心しています。そんな中、まだ少し慣れていない人もいますので、こういうときこそ「思いやり」をもって行動し、全員が安心して学校生活を送れるようにしていきたいと思います。

また、体調不良での欠席も少しみられるようになりました。くれぐれも無理をしないよう、学校では声かけをしています。ご家庭の方でも生活面・体調面でのサポートをよろしくお願いいたします。

.....切り取り.....

【コメント記入欄】

校外学習事前学習

6月18日(木)15:40～16:30

講師 関西保育福祉専門学校

福祉・介護の視点からお話いただきました。老人の特徴を生徒に考えさせ、全員がその特徴を一つ発表し、中嶋先生が生徒の回答に丁寧に解説するというかたちで授業が進みました。みんな、前日のオリエンテーションでの注意をしっかりと受け止め頑張っていました。その中で、気になったところを、いくつか書きます。

まず今回の講義は、老人の特徴をあげることを通して、人と接することの大切さやその方法を学びました。そしてそれは、福祉・介護の視点であるだけでなく、教育・看護にも共通する部分がたくさんあることにも気付かせてくれました。生徒たちにも講義終了後に確認すると同じことを感じてくれていたようです。

次に、「できることは決めてやる」ということです。福祉・介護の世界では「できない」という言葉をすべて認めてしまうと本当にできなくなってしまうことがあるそうです。できることを本人に決断させることが大切なんだそうです。これは生徒自身にも当てはまることだと実感し、我々教師もそうすべきだと思いました。生徒たちの口癖に「先生、ムリ」「そんなん、ムリムリ」があります。そうではなく、「できることは決めてやる」ように促すことが成長に繋がるのだと改めて気づかされました。

最後に、「手を差し伸べるだけではなく、見守ることも大切」ということです。福祉・介護の世界では、「お世話をする」ということが基本です。ですからついつい手を差し伸べたくなる。しかし、できることや頑張れることは、できるまで見守ることがその人の成長に繋がるということ、待つことも大切だということです。

以上の内容は、福祉・介護の視点からのお話でしたが、教育や看護の世界でも十分に通用することがわかりました。生徒たちにも、そのように理解できたようです。

今後、様々な講座が準備されています。今日の講義内容を生徒一人一人が理解し消化して、次のチャレンジして行ってほしいと思います。

ポイント 「できることは決めてやる」

すぐに「先生、ムリ」「そんなん、ムリムリ」と言わない。そうではなく、「できることを決めてやる」ようにすることが成長に繋がる。

実習の心構え

1. 遅刻しない	8. 丁寧な言葉で話しかける
2. 忘れ物をしない	9. 自分勝手な行動をしない
3. 身だしなみを整える	10. 生徒同士の私語は慎む
4. 自分から元気よく挨拶をする	11. いろんな人に話しかける
5. 自分から声をかける	12. 人格を尊重する
6. 目線を合わせる	13. 偏見や先入観を持たない
7. 相手の聞こえる声で話しかける	